

宮古地域 農林水産業の重点施策

令和 7 年10月

沿岸広域振興局農林部 宮古農林振興センター
宮古農林振興センター林務室
沿岸広域振興局水産部 宮古水産振興センター
宮古農業改良普及センター

分野	内 容	市町村	重点項目
農 業	宮古地域で農業ライフをはじめよう 	全 域	自然減・社会減
農 業	農業の将来をみんなで考えて「地域計画」 を策定 New	全 域	自然減・社会減 安全・安心
農 業	海岸環境整備事業 浦の浜地区 ～ 東日本大震災津波からの多様な復旧・復興 ～	山 田 町	自然減・社会減 安全・安心
農 業	ブロッコリー産地の確立	全 域	収益向上
農 業 林 業	畑わさびの生産	岩 泉 町	収益向上
農 業	日本短角種の振興 New	宮 古 市 山 田 町 岩 泉 町	収益向上
農 業 林 業 水 産 業	宮古・下閉伊「食財キングダム」value up事業 ～ 地域の農林水産物「いち推し食材」の 認知度向上の取組 ～ New	全 域	収益向上



更新

New

新規

分野	内 容	市町村	重点項目
林 業	原木しいたけの生産振興 ～ 宮古・下閉伊乾しいたけ品評会の開催 ～ New	全 域	収益向上
林 業	いわて環境の森整備事業 ～ 混交林誘導伐で森林の公益的機能の発揮 ～ 	全 域	自然減・社会減 安全・安心
林 業	適正な県有林の経営管理の推進 ～ 計画的な間伐の実施と林産物の売払い ～ 	全 域	安全・安心 収益向上
林 業	林道整備事業 平波沢線 ～ 地域の防災力強化を目指した林道整備 ～ New	田 野 畑 村	G× 収益向上
林 業	四十八坂地区復旧治山工事 ～ 地域の防災力強化を目指した林道整備 ～ New	山 田 町	安全・安心
林 業	ナラ枯れ被害対策 New	全 域	安全・安心
林 業	宮古市刈屋地区等林野火災の復旧に向けた 取組 New	宮 古 市	G× 安全・安心
水 産 業	水産業出前授業 New	盛岡周辺 地 域	自然減・社会減
水 産 業	県産ホタテガイ天然採苗の取組	田 野 畑 村	収益向上
水 産 業	水産環境整備事業 ～ ハード・ソフト対策の連携による藻場再生の取組 ～	全 域	G× 収益向上

【農業】宮古地域で農業ライフをはじめよう

（宮古地域全域）

自然減
社会減

GX

DX

安全
安心

震災
伝承

収益
向上

【取組のポイント】

- 高齢化の進行等で農業者が減少しているため、新たな農業者に宮古地域へ定着してもらうことが必要
- 関係機関・団体と連携して、相談窓口の設置や経営管理・栽培技術のアドバイス、経営資金の支援など各種支援を実施
- 積極的に就農者の生の声を発信し、宮古地域への就農をPR

【取組の効果】

- 宮古地域では、ここ5年間で85人が新たに就農

＜新規就農者数の推移＞

区分	R2	R3	R4	R5	R6	計
自営・親元	5人	4人	5人	10人	3人	27人
雇用	26人	4人	6人	9人	13人	58人
計	31人	8人	11人	19人	16人	85人

※自営就農：自らが経営主、親元就農：親が経営主で就農、雇用就農：農業経営体に就農

＜相談窓口の設置＞

ワンストップ就農相談会（年3回開催）や、市町村・農協・宮古農業改良普及センター等が就農志向者の相談に対応しています。
また、県内外の就農イベントに相談コーナーを設置しています。



＜経営・栽培指導＞

県は市町村や農協等とともに、新規就農者を定期的に訪問し、経営管理や栽培技術のアドバイスを行っています。



＜地域外への魅力発信＞

宮古地域の就農者の声をYouTubeやHPで発信しています。

また、実際の農業の現場を知ってもらうため、農業の現場を体験できる機会を設けているほか、県内外の就農イベントで宮古地域への就農をPRしています。



岩手 宮古地方で
畜産農家になる



圃場見学会

＜各種支援＞

県や市町村では、就農直後の経営確立を支援する資金の交付や機械・施設の整備の補助をしています。
また、住居取得や家賃を補助している市町村もあります。

【担当：宮古農林振興センター（農政推進課）・宮古農業改良普及センター（地域指導課）】

【農業】農業の将来をみんなで考えて「地域計画」を策定（宮古地域全域）

自然減 社会減 GX DX 安全 安心 震災 伝承 収益 向上

【取組のポイント】

- 農業者の減少や耕作放棄地の拡大が懸念されています。
- このため、国や県、市町村では、将来の農地利用の姿等を定めた「地域計画」を各地域で策定することにしました。
- 市町村が地域毎に農家等の話し合いの場を設け、農業委員会や農協等とともに、県も参加して助言や提案を行いました。

【取組の効果】

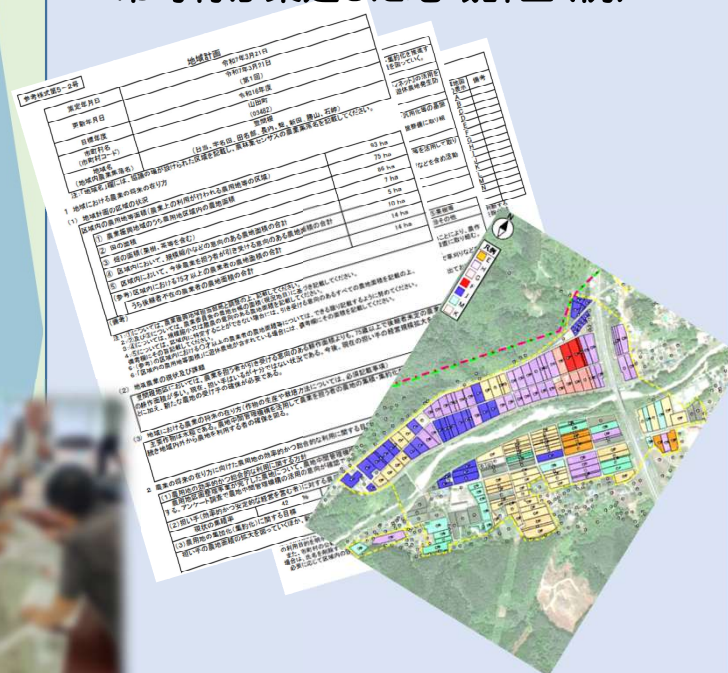
- 地域のあり方を定期的に考える機会を創出
- 宮古管内各市町村は45の「地域計画」を令和7年3月に策定

市町村	宮古市	山田町	岩泉町	田野畑村
計画数	18	5	10	12

【背景と取組内容】

- 農業経営基盤強化促進法の改正（令和5年4月）に伴い、10年後に目指すべき将来の農地利用の姿等を定めた「地域計画」の策定が法定化
 - 地域の話し合い（令和5～6年度）
 - ・ 各市町村とも全地域で複数回開催
 - ・ 県や農協、農業委員会等も参画
 - ・ 地域の農地利用等の将来像を住民同士で検討し、
 - 作物生産等の農業のあり方
 - 農地の利用方針や担い手への農地集積の目標
 - 将来的にだれが利用するか等の農地利用の地図（目標地図）
- 等の10年後に向けた方向性や取組内容を地域内で共有

地域毎に話し合いを取りまとめて市町村が策定した地域計画(例)



地域計画は各市町村のHP等で公表

【今後の方向】

農業者等による地域計画の実行

- ・ 継続的な話し合い
- ・ 担い手への農地集積・集約
- ・ 担い手や新規就農者の確保・育成
- ・ 地域ぐるみの取組等

関係機関・団体による地域計画の実現支援

- ・ 話し合いへの参画
- ・ 技術指導
- ・ 農地相談対応
- ・ 事業導入支援 等

定期的に話し合いを継続・見直し

【担当：宮古農林振興センター（農政推進課）】

【農業】海岸環境整備事業 浦の浜地区 (山田町)

～ 東日本大震災津波からの多様な復旧・復興 ～

自然減
社会減

GX

DX

安全
安心

震災
伝承

収益
向上

【取組のポイント】

- 東日本大震災津波により、約270mに渡って砂浜が流出
- 管理棟も全壊、約60センチの地盤沈下
- 約7,800m³（宮古港フェリーターミナルビル1階天井まで分）の砂を運び込み砂浜を復旧

【取組の効果】

- 砂浜の有する消波機能により波浪を弱める効果を期待
- 各種イベントの開催、「海と鯨の科学館」等近隣施設との相乗効果で地域のにぎわいを創出

【被災後】



砂浜、スロープ等が流出



【復旧後】



砂浜、スロープ等の復旧



【復興へ】



Hondaビーチクリーン活動



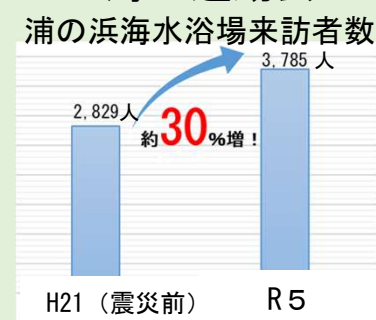
やまだパドルフェス



海の運動会



海水浴客でにぎわう



【担当：宮古農林振興センター（農政推進課）】

【農業】ブロッコリー産地の確立

（宮古地域全域）

自然減
社会減

GX

DX

安全
安心

震災
伝承

収益
向上

【取組のポイント】

- 中核経営体の育成に向けた対象経営体への栽培・経営指導および労働力確保対策
- ブロッコリーの安定生産技術確立
- ブロッコリー産地としての認知度向上

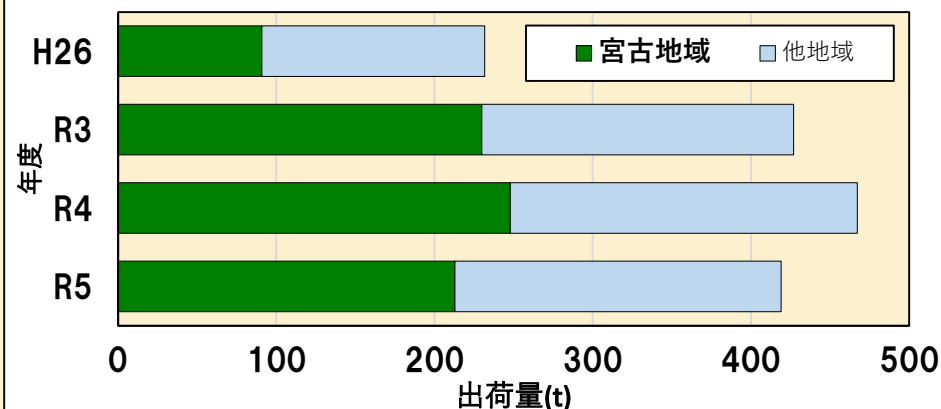
＜宮古地域の特徴＞

- ◆ 内陸とくらべて春早くから温暖で、夏季冷涼な気象条件がブロッコリー栽培に適する
- ◆ 他産地が出荷できない**6月頃の出荷がメイン**
- ◆ 漁港が近く、**氷を容易に入手できる**ため、新鮮な状態での流通が可能

【取組の効果】

- 県内の主要な**ブロッコリー産地に！**
（**全県**の出荷量の**5割強が宮古地域**）

岩手県内ブロッコリーの出荷量



- 労働力確保のための**圃場見学会・農作業体験会**を開催



- 安定生産のための**品種比較や防除技術**を実証



- 小学生を対象とした**ブロッコリー学習会**を開催



【担当：宮古農業改良普及センター（産地育成課・岩泉普及サブセンター）

・宮古農林振興センター（農業振興課）】

【農業・林業】畑わさびの生産（岩泉町）

自然減
社会減

GX

DX

安全
安心

震災
伝承

収益
向上

【取組のポイント】

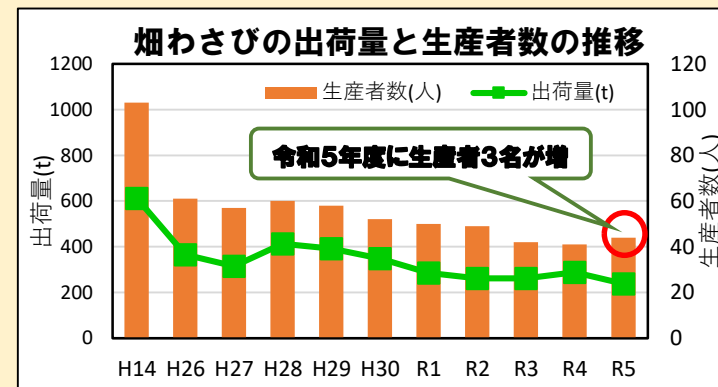
- 新規生産者の確保・育成
- 栽培技術の検討
(種子確保、害虫防除方法の確立)
- 個別巡回や目揃い会での生産指導

<岩泉町の取組>

- ◆ 昭和59年頃から山間地の林地内での畑わさびの植栽が行われ、加工原料としての栽培が始まる
- ◆ 収穫後の洗浄・調整等の作業体制が整っている

【取組の効果】

- 国内一の畑わさび産地の維持
- 新規栽培者の確保



練わさび等の原料として出荷

○ 新規生産者の確保・育成

地域おこし協力隊員向け研修会



圃場見学会



○ 畑わさびの種子確保の取組

採取したわさびの鞘（中に種子）



発芽率に課題あり ▶ 対策手法の確立

【担当：宮古農業改良普及センター（岩泉普及サブセンター）

・宮古農林振興センター林務室（岩泉林務出張所）】

【農業】日本短角種の振興（宮古市、山田町、岩泉町）

自然減
社会減

GX

DX

安全
安心

震災
伝承

収益
向上

【取組のポイント】

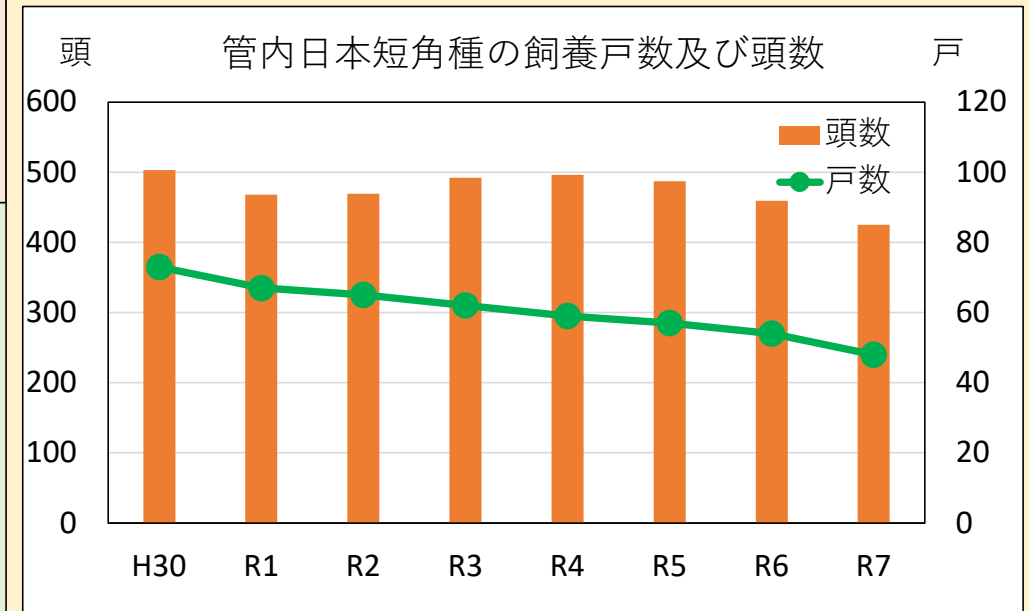
- 日本短角種生産者の飼養意欲の向上
- 適切な草地管理指導による放牧地の維持
- 電気牧柵の活用による放牧管理の平易化

<日本短角種・管内産地の特徴>

- ◆ 寒さに強く、**放牧に適し**、子育てが上手な品種
- ◆ 夏は山に放牧し、冬は牛舎内で育てる伝統的な「**夏山冬里方式**」による飼養管理が行われています
- ◆ 地域内に繁殖農家と肥育農家があり、**地域内での一貫生産体制**が整っています

【取組の効果】

- 日本短角種の頭数維持



- 放牧風景



- 衛生検査の実施



- 電気牧柵による誘導実証



【農業・林業・水産業】宮古・下閉伊「食財キングダム」value up事業（宮古地域全域）

～ 地域の農林水産物「いち推し食材」の認知度向上の取組 ～

自然減
社会減

GX

DX

安全
安心

震災
伝承

収益
向上

【取組のポイント】

- 宮古地域で特に生産振興に取り組んでいる農林水産物「いち推し食材」の知名度向上を図るため、「いち推しグルメフェア」を開催。
- ホテル・飲食店のシェフ等への「いち推し食材」のPR等を目的に産地見学会やミニ商談会を開催。

【取組の効果】

- テレビ等のメディアやSNSを通じて広くPRすることにより、「いち推し食材」の魅力が認知され、地元飲食店等での継続的な利用、消費拡大が期待。
- 産地見学会やミニ商談会の開催によって、生産者及び販売事業者とホテル・飲食店等との取引につながった。

【R6年度】 高校生とシェフ等がいち推し食材を使用したメニューを協働で開発し、提供するフェアを開催（宮古市内3店舗）。メニュー開発にあたり、高校生とシェフ等が生産現場を巡る産地見学会を開催。

【R7年度】 管内のホテル・飲食店等が各店舗のいち推し食材を使用したメニューを提供するフェアを開催（管内4市町村21店舗）。メニュー開発にあたり、いち推し食材の生産者や販売事業者とフェア参加店舗のマッチングを図るため、ミニ商談会を開催。

- 高校生とシェフが生産現場を見学する産地見学会を開催（R6）



- 高校生とシェフが開発したメニューをフェアで提供（R6）



- メディアやマスコミを通じて県民に広くPR（R6）



- 取引の増加を目的としたミニ商談会を開催（R7）



【いち推し食材の一例】

- ・水産物・・・トラウトサーモン、サクラマス、サバ、ブリ、ホタテ、カキ、ワカメ
- ・農産物・・・ブロッコリー、ピーマン、乳製品、短角牛
- ・特用林産物・・・原木しいたけ、畑わさび

等



【担当：宮古農林振興センター・同林務室・宮古農業改良普及センター・宮古水産振興センター】

【林業】原木しいたけの生産振興（宮古地域全域）

～ 宮古・下閉伊乾しいたけ品評会の開催 ～

自然減
社会減

GX

DX

安全
安心

震災
伝承

収益
向上

【取組のポイント】

- 宮古・下閉伊地方は、豊富な広葉樹資源と冷涼な気候を活かした全国でも有数の原木乾しいたけの産地
- 生産者の技術向上と生産意欲の拡大を目的に毎年度、宮古・下閉伊乾しいたけ品評会を開催

【取組の効果】

- 本品評会の上位出品物は、県品評会、全国品評会へと出品され令和6・7年度は、「こうこの部」で全国農林水産大臣賞（第1位相当）・全国林野庁長官賞（第2位相当）、「天白どんこの部」で県最優秀賞（第1位相当）を受賞
- 褒賞授与式と併せて原木乾しいたけの直売会を開催

【平成7年度宮古・下閉伊地方乾しいたけ品評会】

- 1 主 催：宮古・下閉伊地方原木しいたけ生産推進協議会（事務局：林務室）
- 2 共 催：宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村、新岩手農業協同組合、宮古地方森林組合、岩泉町森林組合、田野畑村森林組合

○ 審査会

- 1 日 時：令和7年5月28日（水） 13:30～16:00
- 2 場 所：宮古地区合同庁舎 1階第2会議室
- 3 出品点数：14点
- 4 賞 位：天白どんこ、茶花どんこ、どんこ、こうしん、こうこの5部門
優等賞、1等賞、2等賞、3等賞、奨励賞
- 5 審査員：宮古農林振興センター林務室長ほか



【天白どんこ】 【茶花どんこ】 【どんこ】 【こうしん】 【こうこ】



○ 褒賞授与式・展示

- 1 日 時：令和7年6月6日（金） 13:00～14:00（展示：11:00～15:00）
- 2 場 所：マリンコープDORA ドラホール2（展示：2階会議室）

○ 販売会

- 1 日 時：令和7年6月6日（金） 11:00～15:00
- 2 場 所：マリンコープDORA 1階食品売り場



【担当：宮古農林振興センター林務室・岩泉林務出張所】

【林業】いわて環境の森整備事業（宮古地域全域）

～ 混交林誘導伐で森林の公益的機能の発揮 ～

自然減
社会減

GX

DX

安全
安心

震災
伝承

収益
向上

【取組のポイント】

- 宮古・岩泉管内では、手入れが行き届かなくなった人工林を強度に間伐することで、公益的機能の高い森林へ誘導する「いわて環境の森整備事業」を積極的に推進

【取組の効果】

- 本事業は、宮古市の重茂地区や岩泉町の釜津田地区において、多くの実績
- 豊かな森づくりが豊かな海づくりにつながるという好循環の実現に寄与

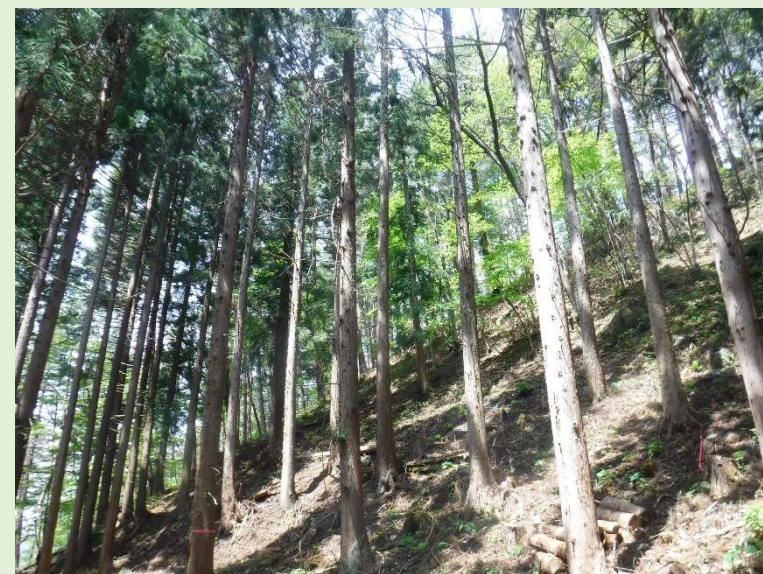
手入れが不足している人工林において、本数率で概ね 50%の強度間伐を実施することで、明るい森林へと林内環境を改善し、広葉樹等の侵入・生育を促しながら、公益的機能の高い森林に誘導しています。

整備面積

年度	面積
R1	77ha
R2	78ha
R3	86ha
R4	115ha
R5	111ha
R6	95ha
R7（計画）	100ha



間伐前



間伐後

【担当：宮古農林振興センター林務室（林業振興課・岩泉林務出張所）】

【林業】適正な県有林の経営管理の推進（宮古地域全域）

～ 計画的な間伐の実施と林産物の売払い ～

自然減
社会減

GX

DX

安全
安心

震災
伝承

収益
向上

【取組のポイント】

- 宮古・岩泉管内の県有林は、602事業区、約21千haと広大
- 適正な保育管理や公売等を実施しながら計画的に林産物を売払い

【取組の効果】

- 計画的な保育を実施することで、森林の公益的機能が発揮されるとともに、森林資源の維持と良質な木材生産に寄与

林齢の若い事業区では、計画的な保育管理を行っており、毎年250ha前後の間伐を実施しています。

また、公売による林産物の売払いは、5月から11月まで毎月実施しています。

【県有林の事業区、面積（令和3年3月末現在）】（単位：事業区、ha）

区 分			事業区数	面積
直営林	県有模範林		1	891
分収林	県行造林	旧県行造林	-	-
		水源林	5	922
		特殊材備蓄林	7	226
		新県行造林	234	8,248
	公営林		355	11,137
合 計			602	21,425

【県有林事業間伐実績・計画面積】（単位：ha）

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7予定
面積	268	215	258	203	215	279	311	233	164

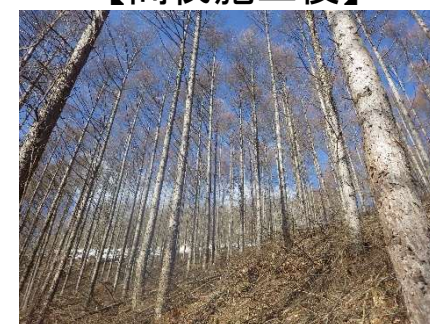
【公売による県有林産物売払（立木処分）落札実績、予定】（単位：件、ha）

年度	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7予定
件数	5	2	8	10	2	13	44
面積	60.03	27.80	97.81	125.48	22.73	145.55	790.30

【間伐施工前】



【間伐施工後】



【公売売払地】



【伐採作業状況】



【伐採跡地】



※再造林の働きかけ

【担当：宮古農林振興センター林務室・岩泉林務出張所】

【林業】林道整備事業 平波沢線(田野畑村)

～ 地域の防災力強化を目指した林道整備 ～

自然減
社会減

GX

DX

安全
安心

震災
伝承

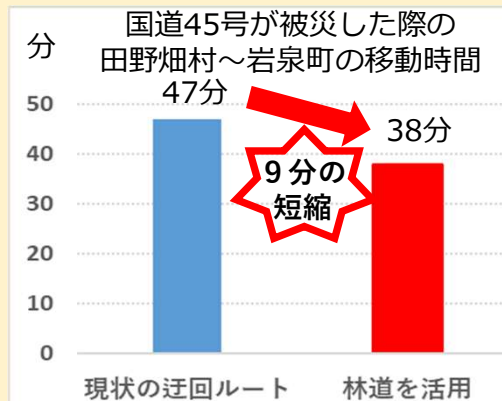
収益
向上

【取組のポイント】

- 当該林道を利用する区域（288ha）においては、森林整備を必要とする人工林が多く、**地元の森林・林業関係者から、林道整備の要望がありました。**
- このことから、平成22年度から林道開設を行っており、令和11年度に全線が開通する予定です。
- また、当該林道は、国道と村道に接続しており、**国道や村道が被災した際は、緊急時の代替路としての役割も期待されています。**

【取組の効果】

- 林道の整備により、間伐や主伐後の再造林等の森林整備が可能となり、**持続的な森林経営を通じた森林の有する多面的機能の発揮が期待されています。**
- 緊急時の代替路として、**地域の防災力の強化が期待されます。**



【整備後のその先】

森林整備、木材搬出への活用



緊急時の代替路としての活用



【担当：宮古農林振興センター林務室（森林保全課）】

～ 令和元年度台風19号災害からの復旧 ～

收益
向上

- 令和元年度10月に発生した**台風19号**により、土砂が流出し、**下流の町道が崩壊**するなどの被害が発生
- **不安定土砂の流出及び山腹の崩壊**を防止するため、谷止工の工事を実施

- 保全対象である人家、町道、高速道路（三陸縦貫道）、鉄道（三陸鉄道）、国道45号線への**不安定土砂の流出を防止**している。
- このような安全確保対策により、災害を防止している。

A photograph of a concrete dam structure. The dam is composed of several large, light-colored concrete panels. To the left of the dam, there is a slope covered with green mesh and wooden stakes. To the right, there is a slope covered with yellow mesh. A blue arrow points to a dark, possibly water-filled or eroded area at the base of the dam. The background shows a forest of bare trees on a hillside.

A photograph of a forest stream bed. A red line is drawn across the top of the image, representing the water surface elevation. A blue arrow points downwards from the center of the image towards the stream bed. The stream bed is composed of rocks and fallen leaves. The surrounding forest consists of tall, thin trees.

【担当：宮古農林振興センター林務室（森林保全課）】

【林業】ナラ枯れ被害対策（宮古地区全域）

自然減
社会減

GX

DX

安全
安心

震災
伝承

収益
向上

【取組のポイント】

- 宮古・岩泉管内の被害量は、令和2年度以降は令和5年度を除き2,000㎡を超える規模で推移している。
- 平成28年度に宮古管内で被害が発生以降、沿岸部を中心に被害が急激に北上しており、管内市町村との連絡会議を開催し、被害状況を情報共有し駆除事業等を実施している。

【具体的な取組】

- 地上調査及び先端地域（主に西側の内陸部）でヘリ調査を行い、被害個所の把握に努め、調査結果をナラ枯れ被害対策連絡会議において関係者間で被害情報を共有
- 重点箇所を対象とした駆除のほか、先端地域周辺の未被害地域において、「ナラ林健全化事業」により被害を受けやすい高齢なナラ林を伐採し若返りを図る対策を実施

被害量 (㎡)			
年度	宮古地区	岩泉地区	計
H28	351	—	351
H29	2,023	—	2,023
H30	1,302	15	1,317
R01	950	204	1,154
R02	1,882	512	2,394
R03	1,162	1,446	2,608
R04	1,207	1,139	2,346
R05	311	852	1,163
R06	1,515	738	2,253
計	10,703	4,906	15,609

ナラ枯れ駆除実績 (㎡)			
	宮古地区	岩泉地区	計
H28	0	0	0
H29	404	0	404
H30	598	0	598
R1	591	0	591
R2	113	329	443
R3	89	297	385
R4	115	354	468
R5	124	273	397
R6	79	118	197
計	2,112	1,371	3,483

ナラ林健全化事業実績(㎡)			
	宮古地区	岩泉地区	計
R3	200	3,008	3,208
R4	701	6,715	7,417
R5	—	8,563	8,563
R6	360	3,658	4,018
計	1,261	21,944	23,205



ナラ枯れ被害状況



駆除実施状況

【担当：宮古農林振興センター林務室（林業振興課・岩泉林務出張所）】

【林業】宮古市刈屋地区等林野火災の復旧に向けた取組（宮古市）

自然減
社会減

GX

DX

安全
安心

震災
伝承

収益
向上

【取組のポイント】

- 令和6年4月に発生した宮古市刈屋地区等林野火災では、187ヘクタールの森林を焼失
- 令和6年5月に設置された宮古市刈屋地区等林地再生対策協議会において、同年9月に復旧計画を策定
- 復旧計画により定められたゾーン毎に取組を推進
- 被害木を有効活用する取組も推進

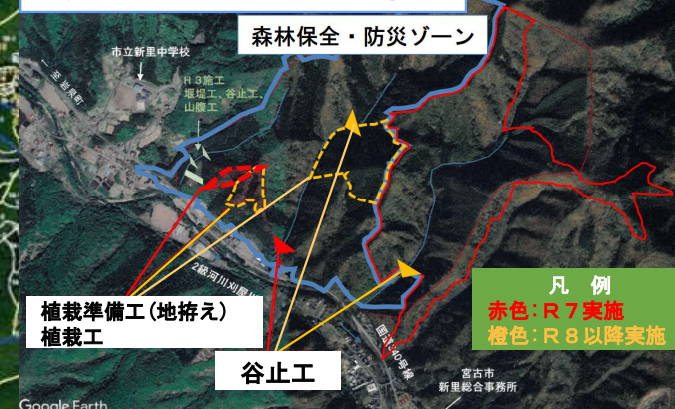
【取組の効果】

- 「森林保全・防災ゾーン」では、森林の公益的機能の発揮と防災施設の設置により保全を図っている。
（県が「治山事業」により復旧）
- 「新しい林業経営ゾーン」では、森林経営管理制度を活用し、森林整備事業により保全を図っている。
（宮古市が「森林整備事業」により復旧）

復旧エリアのゾーニング



復旧に向けた取組(県)



被害木を有効活用するための実証試験

宮古市並びに宮古市内の企業から協力をいただき取り組んでいます。



【担当：宮古農林振興センター林務室（森林保全課・林業振興課）】

【水産業】水産業出前授業（盛岡周辺地域）

自然減
社会減

GX

DX

安全
安心

震災
伝承

収益
向上

【取組のポイント】

- 宮古管内の漁業就業者数は年々減少傾向
- 多数の漁業者を輩出してきた宮古水産高校においても、地域内の人口減少に伴い生徒数が大きく減少
- 水産業を志す人材を地域外から発掘する必要あり
 - ☞ 漁業者、宮古水産高校と連携して、盛岡周辺地域の中学生を対象に「水産業出前事業」を実施

【取組の効果】

- 令和3年の取組開始以降、雫石中学校、滝沢南中学校、滝沢中学校、土淵中学校、矢巾北中学校に延べ13回の出前授業を実施（令和7年7月末時点）
- 令和4～6年度の宮古水産高校海洋生産科入学者延べ33名のうち4名が、出前授業実施の中学校出身
- 令和6年度は、海洋生産科入学者10名のうち3名が出前授業実施の中学校出身（入学者の3割）

出前授業の構成（一例）

出前授業のメニュー

●岩手県の水産業について

●宮古水産高校の紹介

●ホタテガイ※ 養殖漁業の紹介

※カキ養殖、ワカメ養殖、かご漁業を営む漁業者も講演実績あり

●岩手県の水産業について



講師：宮古水産振興センター職員

●宮古水産高校の紹介



講師：宮古水産高校教諭・生徒

●ホタテガイ養殖漁業の紹介



講師：当該漁業を営む漁業者



水産高校まぐろ延縄実習の説明



クイズに答える中学生



かご漁業の説明を聴く中学生



水産高校生徒と中学生との交流

【担当：宮古水産振興センター（水産振興課）】

【水産業】県産ホタテガイ天然採苗の取組（田野畑村）

自然減
社会減

GX

DX

安全
安心

震災
伝承

収益
向上

【取組のポイント】

- ホタテ養殖は、海中を漂っているホタテの幼生を十分な採苗器に付着させ、採取することが重要
- ホタテ種苗の供給量は不安定であり、種苗の安定供給体制の構築が必要（表1）
- これまでホタテ養殖を行っていない海域で新たにホタテの採苗を試み、種苗の安定供給と種苗の販売による漁業者の収入向上を目的

【取組の効果】

- 田野畑村、田老町、小本浜地先で採苗試験を実施
- 田野畑村の採苗数が多く、採苗数も安定（表2）
- 種苗の成長・生残、出荷の歩留まりが良好（図1）
- R5年度からは事業規模の採苗試験を実施（図2、3）
- 令和6年度から漁業者5名が事業化し、1人当たり7万円の収入増

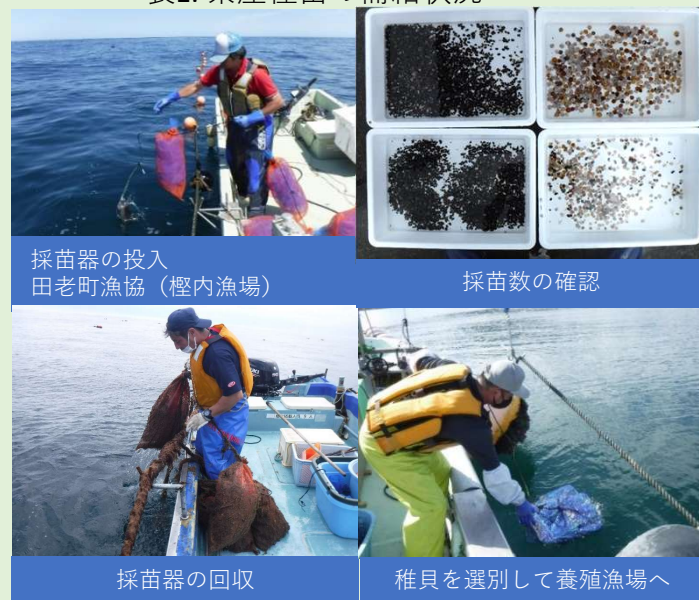
R3～R4年度 採苗試験・養殖試験

年度	希望数量 (千枚、A)	供給数量 (千枚、B)	割合 (%、B/A)
H29	2,065	1,800	87
H30	2,354	1,800	77
R1	3,346	1,700	51
R2	3,120	943	30
R3	2,985	1,648	55

表1. 県産種苗の需給状況

年度	採苗器投入時期	田野畑村	小本浜	田老
R3	5月中旬	452	360	195
	5月下旬	156	32	57
	6月上旬	26	9	22
R4	5月上旬	783	586	641
	5月中・下旬	342	229	117
	6月上旬	226	399	158

表2. 各地区における時期別採苗数



	平均殻長 (mm)	平均重量 (g/枚)
田野畑村産稚貝	68.3～77.2	30.5～40.7
地産（山田湾産）	75.9	39.9

図1. 養殖試験による成長調査結果

R5～R6年度事業規模の採苗



図2. 採苗器700個



図3. 田野畑村で採苗したホタテ

【担当：宮古水産振興センター（水産振興課）】

【水産業】水産環境整備事業（宮古地域全域）

～ハード・ソフト対策の連携による藻場再生の取組～

自然減
社会減

GX

DX

安全
安心

震災
伝承

収益
向上

【取組のポイント】

- 沿岸域の藻場が衰退し漁獲量が減少



ウニによる食害

要因

- 漁獲量を回復するため藻場の再生

★藻場の役割★

- 魚介類の餌場、隠れ場、産卵や幼稚仔の生育の場
- 二酸化炭素を吸収・固定し、地球温暖化防止に向けた脱炭素社会の形成に寄与

【取組の目標】

- 令和12年度までに約2,300haまで藻場を回復

宮古管内（岩手県）の藻場面積推移



【整備前】

衰退前の藻場



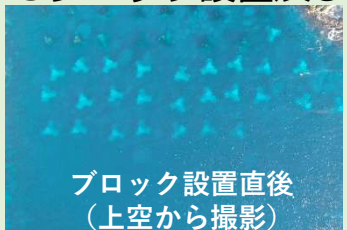
○藻場の衰退要因

ウニによる食害



【整備状況（宮古市田老）】

○ブロック設置及び設置直後の状況



ブロック設置直後
(上空から撮影)



ブロック設置状況



ブロック設置直後

○海藻繁茂状況（ブロック設置から約6か月）



海藻繁茂状況
(上空から撮影)



海藻繁茂状況



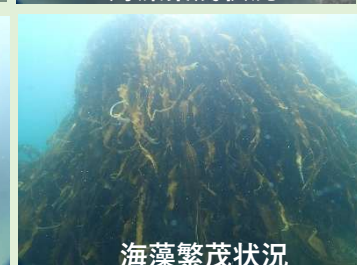
海藻繁茂状況



アワビ



海藻繁茂状況



海藻繁茂状況

【整備後のその先】

ハード・ソフト連携による
取組イメージ

ハード

ソフト

ブロックの設置

タネの供給

ウニ除去



冬季の海水温上昇に伴い、ウニが活発に活動しているため、海藻の芽が食べられないよう、ウニ除去を実施

- ブロックの設置によるハード対策とウニ除去等のソフト対策を行うことにより、藻場の拡大が期待されます。
- 将来的には、コンブ等の藻場の再生により、アワビ等の漁獲量が増加し、所得の向上が期待されます。

【担当：宮古水産振興センター（漁港漁村課）】